

2018年度(平成30年度)学校評価自己評価表

加茂中学校区	校番 20	福山市立加茂中学校
最終更新日	2019年(平成31年)2月28日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

○よさ・成果 △課題 ☆今後に向けて

◇前年度学校関係者評価の主な内容
 学校評価の数値だけでなく、落ち着いた授業の様子や、日常生活場面での規範意識の高まり等から、小中で連携しながら着実に教育活動を積み上げていることが伺える。今後も、郷土加茂・福山への愛着・貢献心を育むとともに、加茂を築いた後も活躍できる力を更に高めていってほしい。

児童生徒の現状
 ・1小1中⇒中1ギャップは少ない
 △友人との関わりや見方が固定化⇒互いの新たな可能性や成長に気づきにくい。
 ・生活面⇒〇あいさつができる△基本的な生活・学習習慣、規範意識等に課題
 ・学力面⇒〇「基礎・基本」定着傾向
 △思考力等に課題△家庭学習の習慣化
 ・体力面⇒〇改善傾向△投力、持久力等

育成する力 21世紀型「スキル&倫理」	小 中	創造力、課題発見・解決力 考える・伝える・聴く力、見通す・振り返る力	粘り強さ、フロンティア 社会性	
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)		豊かな心と、郷土加茂・福山への愛着・貢献心を持ち、 自律的・協働的に、自らや社会の未来を切り拓いていく子ども		
中学校区として 統一した取組等		①「比較する・関連付ける」←考える・伝える・聴く場面で ②「見通す・振り返る」←単元等のまとまりの中で、意図的・計画的に ③「豊かなかわり」←仲間とともに課題解決をめざす過程で		
育成する力	知識・技能	21世紀型「スキル&倫理」		
		考える・伝える・聴く力	見通す・振り返る力	
		社会性		
めざす子ども像	ステップⅠ (1年)	比較・関連付けて考える →分かりやすく伝える →最初から最後まで聴く	達成すべき目的・目標や解決すべき課題を見いだす →結果を振り返る	当たり前だが、少し我慢してでも、当たり前でできる＝規範意識
	ステップⅡ (2年)	論理的・科学的に考える →結論・根拠等で伝える →比較・関連付けながら聴く	学習内容・進め方等を理解・把握する →過程を振り返る	感謝・思いやりの心を、ことばや行動にすることができる＝他者意識
	ステップⅢ (3年)	多面的・多角的に考える →創造的・建設的に伝える →理解・納得・共感して聴く	自分で計画を立てたり、方法を予想したりする →価値を振り返る	集団生活における目的・目標達成、課題解決に向けて自分の役割を果たし、心からの笑顔を増やすことができる＝貢献
	教科等	各教科、特別活動(行事、生徒会・学級活動)部・ボランティア活動		
研究	主題 内容①②	「考える・伝える」力の育成 ~単元構想等を基に、意図的・計画的に~ ①考える必然性のある課題(比較・関連付け) ②見通しを立てたり、振り返ったりしたことを書く・伝え合う・確かめ合う場の工夫		
めざす 授業の姿		①チャイムでスッキリ、スタート・フィニッシュする授業 ②どうして・なるほど・できたの場がある授業 ③学び方を学ぶ授業		

III 自校

ミッション
学校教育目標(下記◎)及び保護者・地域の願い(上記◇等)を、生徒の姿で、具現化する。=「行きたい・行かせたい」加茂中
◎学校教育目標
豊かな心を持ち、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成 ~未来を切り拓く力を育む~

現状 <生徒><授業>(成果○ 課題△)
<生徒>〇明るく素直で、あいさつのできる生徒が多い△互いに切磋琢磨し、伸びていこうとする意識や、目標を設定し、本気で挑戦したり、他校と競い合ったりする中で、達成感や喜びを味わう・共有する等の経験不足⇒自己肯定感、所属・承認意識等に課題 △基本的な生活・学習(家庭学習)習慣、社会性(規範・他者意識・貢献等)に課題 △長欠生徒が、減少していない ○学力面では、全般的に改善傾向△「基礎・基本」の定着や、読解力、「考える・伝える」力、活用(記述)問題への対応力等に課題 ○体力面でも、改善傾向だが・・・△男女ともに経年課題(投力・持久力等) <授業>〇授業規律概ね確保〇チョークの色違いを統一した分かりやすい板書と、ノートづくり・指導の連鎖〇めあて(学習課題)の工夫〇繰り返し(ドリル)学習の徹底 △じっくり考え・書かせるための課題設定△考え、書いたことを基にした意見等の伝え合い△追記・修正・整理しながら、ペアやグループで考えを広げる・深める場面設定・指導 △めあてに対応するまとめ・振り返りの時間確保・指導=50分を見通した効率的な構成・展開△家庭学習や次時につなげる終末と、家庭学習内容の充実△単元構想に基づく課題発見・解決学習△机間指導等による個別の学習成果・課題の見取りと手立て

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立加茂中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組・指導・評価	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	学ぶ力を身に付けたい。	1		「考える・伝える」力を育てる。	☆単元構想シート⇒振り返り ①どうして!の場を持つ ②なるほど!の場を持つ ③できた!の場を持つ	定期テストで ・30%未満10%以下 ・60%以上60%以上 ・思考・活用型問題 記述式問題の通過率50%以上	定期テスト ・30%未満5教科(9.5%) 9教科(7.8%) ・60%以上5教科(57.8%) 9教科(60.1%) 思考・活用型問題通過率54.8%	3	3	数値目標は達成している。無回答や基礎的内容が定着していない生徒に対して、振り返りを通して、躓きを分析させ、指導していく。	定期テスト ・30%未満5教科(12.4%) 9教科(10.3%) ・60%以上5教科(52.2%) 9教科(56.6%) 思考・活用型問題通過率65.3%	3	2	3	教えるのではなく、生徒自信で気がつき、なるほどと理解ができる単元指導計画や、振り返りの充実を行う。
2	社会性を身に付けたい。			「協働・参画・貢献心」を育てる。	☆「特別活動」「生徒会活動」「学年・学級経営」「道徳」をつなげる活動	行事における ・達成感 ・協働・参画・貢献心に係る生徒アンケート肯定率80%以上	体育大会 ・達成感、満足度(93.4%) ・協働、参画、貢献心(92.4%)	3	3	数値目標は達成している。「協働」の質を高めるため、クラスや学年、学校全体での「協働」を実践、自覚できるように活動を仕組んでいく。	文化祭 ・達成感、満足度(93.8%) ・協働、参画、貢献心(97.0%)	3	3	3	相互評価を取組の段階で行う。行動化を図る(行事の振り返りを使って、特別活動の授業を通して日常生活とつなげる)
2	自体力を向上させたい。	1		持久力を中心に、体力を更に向上させる。	・体育的行事と体育授業、特別活動(部活動等)との関連を図る。 ・小中連携	・体力テスト 県平均以上の種目60%以上 ・持久力に係る再テスト自己ベスト率80%	【体力テスト】 県平均以上の種目 男子：1年25% 2年12.5% 3年37.5% 女子：1年37.5% 2年25%、3年0%	2	2	数値が目標に達成していない。駅伝マラソン大会との関連させ、持久力向上を図る。	【持久力に係る再テスト】 自己ベスト更新の生徒 男子1年95% 2年98% 3年90% 女子1年81% 2年83% 3年77%	3	3	3	来年度から、体力テストを全校体制で実施し、県平均を可視化することで目標を達成させる。
2	目標を高める			学校教育活動に対する、保護者満足度をより高める。	①家庭連携(その日のことはその日のうちに) ②情報発信(各種便り、HP)	①②に係る教員・保護者アンケート肯定率85%以上	・保護者満足度77.1% ・家庭連携教員87.5% 保護者78.3% ・情報発信：教員68.8%	2	2	生徒、保護者に寄り添う指導をさらに進める。具体的には、生徒の言動で気になるときはすぐに生徒、保護者と連携し、その思いを学年、全体で共有化し、取り組む。	・保護者満足度78.2% ・家庭連携教員100% 保護者79% ・情報発信教員69.2%	2	2	2	教職員がコミュニケーションをつけ、寄り添う指導をさらに行う。

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。